

aesthetics

エステティクス

ラウンドテーブル

「分裂／生成の感性術」



プレイ
遊戯としての人文学
play

村上駿斗

石川愛

山田惇一

高多伊吹

東京大学総合文化研究科博士課程

Photo by TANAKA Jun

2025

7.26 sat.

START

14:00-

東京大学駒場キャンパス

18号館 4階コラボレーションルーム3

Komaba Campus

主催 | 表象文化論「文化クリティシズム」担当教員(田中純)+学生有志
協力 | 東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻表象文化論コース

無料・要事前予約



ラウンドテーブル 「分裂／生成の感性術」

「分裂生成」(ベイトソン)——他者からの差異化として自らを定義すること。すでにある規範を問いただし、そこから身を引き剥がそうとする身振りは、しかしまたひとつの規範へと収斂してゆく。だがグレーバー+ウエングロウは『万物の黎明』において、単なる対抗に陥りかねないこの概念を「創造的拒絶」というダイナミックな文化批判に読み替えた。こうしたパラフレーズは、語に新たな意味を感知・付与することで新たなナラティヴを形成する感性術(フラー+ヴァイツマン『調査的感性術』)の操作に他ならない。われわれは駒場を舞台として、この実演を試みよう。講義「文化・学術・芸術の分裂生成あるいは内戦」(担当教員:田中純)を踏まえた4名が、規律・訓練的なルールを逸脱する「遊戯」^{プレイ}としての人文学を上演する。パネリストによる論考・発表を共通の土台としつつ、ラウンドテーブル形式での相互批評・オーディエンスを交えた討論を通じて饗宴的な場を形成することが、本演目の主題である。

パネリスト

村上駿斗

「私たちの《漢字の術》^{エステティクス}に向かって——水村美苗・多和田葉子・目取真俊の表現実践とともに」

石川愛

「居た堪れなさを歌う——ポピュラー音楽におけるカバー・パフォーマンスとコレオグラフィー」

山田惇一 (司会)

「白鳥のメタモルフォーゼ——ベンヤミン・ボードレール・ゲオルゲ」

高多伊吹

「Humor cannot but signal: “You (more)……”——二階から落下するユーモアについて」

進行

開催日の一週間ほど前に、オーディエンスを含めた参加者に論考を事前に共有する。そのかわり、当日の発表は短時間とし、パネリスト間での対話・討論を中心とする。

主催者挨拶→司会による導入→
パネリスト1の発表→パネリスト2によるコメント・対話→
パネリスト2の発表→……→パネリスト4の発表→
パネリスト1によるコメント・対話→パネリスト間での討論→
オーディエンスとの討論



Photo by TANAKA Jun

プレイ
遊戯としての人文学

2025
7.26 sat.

START 14:00-

東京大学駒場キャンパス
18号館 4階コラボレーションルーム3

問い合わせ | schismogenesis2025@gmail.com
主催 | 表象文化論「文化クリティシズム」担当教員(田中純)+学生有志
協力 | 東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻表象文化論コース

無料・要事前予約

